

# 劇空間の誘い

～国際文化交流学科 深澤ゼミナール～



9月下旬、合宿の様子

私達は、神奈川大学外国語学部国際文化交流学科の深澤ゼミ生です。主な活動は、演劇に関する一冊の本を精読し、劇空間について理解を深めることです。加えて、課外活動と称し、年に二回ほど下北沢や十条へ観劇に足を運びます。そして一人一人が劇のどこに焦点を当て観劇していたのか、どのような工夫が劇中されていたかなど話し合い、他の人の考えを知ることができる機会が多くあります。

今年の9月中旬には、代々木にある「国立オリンピック記念青少年総合センター」にて1泊2日でのゼミ合宿を行いました。論文の内容をパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションを行い、論文の内容を深める作業に努めました。合宿中、駒場アゴラ劇場で *iaku* による『あつい胸さわぎ』を観劇しました。小さな劇場の中で繰りひろげられる生々しい葛藤に心を打たれました。

外国語学部 国際文化交流学科 3年 清水菜月

ゼミⅠでは、一冊の本を精読します。昨年度は、石川九楊氏による『日本語とはどういう言語か』（講談社、2015）を精読しました。内容は大きく文（かきことば）篇と言（はなしことば）篇の二つに区切られています。文と言の二つの面から日本語とはどういう言語かについて話し合いました。ゼミ生一人ひとりがローテーションで章ごとに、章の内容をまとめ、レジュメを作成し、発表するということをしています。そして、発表された章の内容に関して、一人ひとつは質問をします。この活動によって、本の内容を自分なりにまとめ、レジュメという形にし、発表する力及び、疑問を持ち質問する力が身についたと感じています。

ゼミⅡでは、懸賞論文を書くことを主な活動としています。前期では、論文に取り組むテーマを決め、論文としての形を作成していきます。テーマを決めた後、生に助言を頂きながら図書館でテーマに沿った図書を借り、論文を書き上げることを目標としています。夏季休暇中に各自で論文を書き上げ、休暇の終わりごろに合宿で最終確認を行

い、修正を重ね提出という流れです。懸賞論文提出後には、ゼミ一同様、一冊の本を精読します。今年度は服部幸雄氏による『大いなる小屋・江戸歌舞伎の祝祭空間』（講談社、2012）を精読しています。江戸時代にあつたものと現在ある歌舞伎の違いを劇場空間の面からみていきます。ゼミIとは異なり、章ごとのキーワードやその章を担当したゼミ生が読み進めるうえで疑問に思った点を書き出す形のレジュメ作成になりました。レジュメに書き出す分量は少なくなりましたが、章の中で重要な部分を抜き出さなければならない為、2年次よりも高度な精読が求められているように感じています。

懸賞論文のテーマは、演劇や表現方法に関するものならば可、と幅広く、個人で興味あるものを選択することができます。今期では、道化、2・5次元ミュージカル、アニメーションを用いての「こもり」について、ロシアにおけるバレエなど、様々なテーマを個人で設定し書き上げました。6月にはテーマを決定し、7月から参考文献を集め、夏季休暇中に書き上げる、という流れで懸賞論文を取り掛かりました。卒業論文に向けての良い経験になりました。



篠原演芸場にて観劇1



篠原演芸場にて観劇2